

○本市の2060年における人口の将来展望を示した富山市人口ビジョン（H27策定）について、5年間の実績の推移及び市民アンケートによる進学、仕事、結婚、出産等に関する意識を分析し人口ビジョンの改訂を行う

現行の人口ビジョン (2015～2060年の中長期的展望)

富山市の人口推移

- 総人口は今後減少局面へ**
 - 合併前の旧市町村を合わせた総人口は1950年に30万人を、1985年には40万人を超え、これまで一貫して増加
 - 1990年頃からは人口の増加傾向が緩やかになり、2000年頃からはほぼ横ばいで推移しており、今後は減少に転じる見込み
 - 2015年8月末現在人口：419,038人
(2019年10月末現在人口：416,053人)

- 自然動態**
 - 2004年までは、出生数が死亡数を上回る「自然増」、2005年以降は出生数より死亡数が上回る「自然減」
 - 「自然減」に転じて以降は、出生数と死亡数の差は大きくなる一方であり、2013年には年間の出生数より死亡数が1,264人超過
 - 少子高齢化の進行とともに、今後人口の自然減少が一層強まっていく見通し

- 社会動態**
 - 2003年以降は転入者数が転出者数を上回る年が多く、2007年と2013年を除いて転入超過
 - 転入者数及び転出者数の実数はともに減少傾向にあり、2014年には転出者数が近年で最も少ない10,750人(2018年12月末時点で、11年連続転入超過となっている)

中長期的展望(2015年～2060年)

- 目指すべき将来の展望**
2060年に人口33万人程度(目標)

- 出生率の向上
(富山市民の希望出生率である1.92を目標)
 - 人口社会増の維持
- ↓
- 50年前と同等の人口水準を維持

「第1期」総合戦略
(2015～2019年度の5年間)

1. 現行ビジョンと実績の推移を比較しながら人口の状況を分析
2. アンケートをもとに、進学、仕事、結婚、出産等に関する意識を分析

1. 近年の「社会増」の影響もあり、現行の人口ビジョンと直近の人口実績及び将来推計人口は近似した数値で推移している
一方で、真に少子・超高齢社会を克服するための「自然増」とはなっていない
2. アンケートによる市民の希望出生率【**1.92 → 1.88**】
※H29年度出生率 1.54

最新の人口動態等の数値・市民の希望出生率を用いて、再度人口推計を行い、目標人口を検討

最新の数値を用いて目標人口を設定

	ケース1 (本市将来人口推計)	ケース2 (国同等)	ケース3 (市民希望出生率 回帰分析)
実施概要	出生率は1.50～1.53程度で推移	出生率を国の示す人口置換水準に準拠 →出生率は、2.07まで上昇	過去の出生率の実績に基づいた回帰分析により、富山市民の出生率の推移を予測 →出生率は、1.88まで上昇 (市民希望出生率)
基準人口	平成27年(2015)国勢調査		
推計年次	令和2年(2020)～令和42年(2060年)⇒5年毎に推計		
出生性比	平成25年(2013)10月～平成30年(2018)9月富山県出生数実績値より算出 ⇒全期間で106.09		
生残率	国立社会保障・人口問題研究所推計値(富山市値)		
純移動率	平成25年(2013)9月と平成30年(2018)9月の住民基本台帳人口から、移動率を算出(旧市町村ごと)し、将来にわたって傾向は変化しないと仮定(収束しない)		
合計特殊出生率	平成27年(2015)の本市出生率1.53と全国出生率実績値1.4504の格差を求め、国立社会保障・人口問題研究所推計の推計値に乗じる	令和22年(2040)までに出生率が人口置換水準の2.07まで上昇し、その後変化しないものとして推計	令和42年(2060)までに出生率が1.88まで上昇するものとして推計

目指すべき人口の水準として、ケース3を採用

目指すべき人口の展望 (2015年～2060年)

**人口34万5千人程度
(目標)に上方修正**

希望出生率 1.88

※本市は、社会増を維持しているが、長期的には自然増を維持していく必要がある

※希望出生率を実現した場合においても、本市の総人口の減少は止められないことに留意

「第2期」総合戦略
(2020～2024年度の5年間)